

校長・副校長・
教頭先生に役立つ!



【発行日】 平成 30 年 8 月 31 日
【発行者】 茨城県教育庁就学前教育・家庭教育推進室
電話 (029) 301-5132

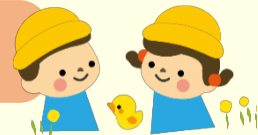
【取材・編集】 一般社団法人 子育てネットワークままもり

すくすく育て いばらきっ子

就学前教育・家庭教育推進室だより

入学前の子どもたちは
1日をどのように
過ごしているの?

就学前の施設をご紹介します 「幼児教育施設の1日」～その② 保育所編～



先月号より、小学校入学前の子どもたちが幼児教育施設で、どのように1日を過ごしているのかを紹介しています。第2回目は『保育所編』です。

<主な1日の流れ>

- 7:00頃～ 【登所】
保護者の送りやバスで登所し、自発的な遊びをします。
- 8:30頃 【クラス※1活動】
教室や園庭での自発的な遊びはもちろん、製作や粘土遊び・音楽・体操などの活動や散歩などの戸外遊び、季節の行事を行うところもあります。
- 11:30頃 【昼食】
給食(自園調理)を食べます。
- 13:00頃 【昼寝】
保育者が絵本や紙芝居を読み聞かせ、昼寝をします。
- 14:30頃 【目覚め】
おやつを食べた後に、自発的な遊びをします。
- 15:00頃
- 16:00頃 保護者が順次、迎えに来ます。バスでの送りもあります。
- 18:00頃～ 延長保育に引き継ぎます。保護者のお迎えでそれぞれ降所します。

※1 クラス編成

保育所では0～5歳児と幅広い年齢の子どもが在籍しているため、年齢のほか、月齢や発達段階などを踏まえてクラス分けされています。また、3歳児から5歳児については年齢を縦割りにして保育活動し、異年齢交流の場を設けている施設もあります。子どもの年齢によって必要な保育者の人数が異なるのも特徴です。

子育て支援

保育所では、子育て中の親子の交流などを促進するため、地域の子育て支援活動を行っています。子育て中の不安感などを和らげ、子どもの健やかな育ちを支援することを目的として、園庭の開放はもちろん、離乳食や食育の相談、保育体験、病児保育事業や特別な配慮を必要とする家庭への個別の支援など様々な取組をしています。入所していなくても利用することができるものが多くあります。

幼児教育施設の特徴

幼児期の「遊び」が
「学びに向かう力」になります

保育所等の幼児教育施設での生活は、子どもたちにとって家庭から離れて同世代の子どもと一緒に過ごす初めての集団生活です。

こうした生活の中で、子どもたちはいろいろな体験をし、不思議に感じたり、気付いたりしながら、いろいろなことを自分たちで考え、試したり、工夫したりすることで、様々な力を身に付けていきます。

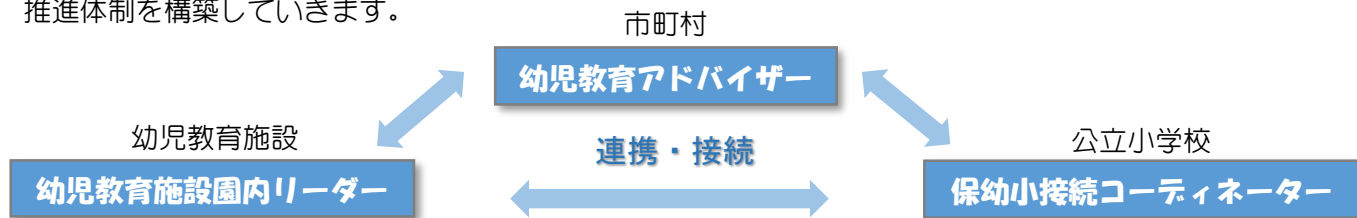
この「遊び」の中で育まれた、やり抜く力や協調性など、IQテストや学力テストなどでは測れない「非認知的能力」を伸ばすことができます。小学校以降の「学びに向かう力」やいわゆるIQや「認知能力」にもつながると言われています。

次号は幼保連携型
認定こども園編です。



研修をととして、幼児教育と小学校教育の 接続・推進体制を構築します

今年度より、年間を通じて「幼児教育施設園内リーダー」及び「保幼小接続コーディネーター」、「幼児教育アドバイザー」の養成研修を行っています。三者がお互いに情報交換・連携し、市町村の推進体制を構築していきます。



【幼児教育施設園内リーダー養成研修】 参加人数 255人（県北・鹿行・水戸）※年1回開催

小学校との連携・接続等に向けて中心的な役割を担う方（主幹教諭、主任保育士、5歳児担任等）を対象に行います。

- 講義「保幼小の連携・接続の充実に向けて」・「家庭教育支援関連事業」
- グループ協議「各園における接続に向けた取組について」

〈アンケートより〉

- ・交流・参観だけでなく、さらに踏み込む協議の大切さを知りました。
- ・幼児教育施設を受け入れる小学校が中心となって研修会等の計画を立ててくれると有難いです。
- ・小学校側からの声掛けを待つばかりでなく、幼児教育施設側からも声を掛け、連携していくことも考えなければならぬと感じました。
- ・小学校と幼児教育施設との関わり方、生活の流れ、保護者支援の違いがあり、保護者の不安にもつながるので、双方での話し合いや研修会が必要だと思います。



※実施予定 県南地区（県南生涯学習センター）11月8日（木）
県西地区（県西生涯学習センター）10月31日（水）
延期としたため、再度募集（申し込み）をします。

【保幼小接続コーディネーター養成研修】 参加人数 504人（5地区）

年2回（6月、11月）、各小学校において幼児教育との連携・接続等に向けて中心的な役割を担う方を対象に行います。

- 講義「保幼小の連携・接続に向けて」・「家庭教育支援関連事業」
- グループ協議「各校における接続に向けた取組について」

〈アンケートより〉

- ・保幼小の情報交換は大切だと思います。しかし、場の設定や時間的な課題があります。
- ・小学校と比べ、幼児教育施設にはどのような課題があるのか知りたいです。
- ・今後、校内研修を通して幼児教育の理解を図っていく必要があると感じました。
- ・園児と交流をもつ、園と小学校の職員が交流をもつなど、情報交換をもっと行う必要があると感じました。



【幼児教育アドバイザー養成研修】 参加人数 59人（42市町村）

※内訳：指導主事・社会教育主事等66.1%、市町村職員30.5%、その他3.4%

年2回（5月、2月）、各市町村において幼児教育の推進に向けて中心的な役割を担う方を対象に行います。

- 講演「保幼小の連携・接続に向けて」（講師 茨城女子短期大学 教授 助川公継 氏）
- 講義「家庭教育支援」「特別支援教育」
- グループ協議「各地域での今後の取組について」

〈アンケートより〉

- ・まずは、アドバイザー同士の情報交換や研修会が必要だと思います。
- ・モデル地区の取組を自分の市町村にも普及させたいです。
- ・保幼小の連携・接続の実践例がもっと知りたいです。
- ・アドバイザーと接続コーディネーター、園内リーダーが一堂に会する機会が必要だと思います。

